

2024年度(令和6年度) 新体力テストの結果

生徒質問紙(第2学年)

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか					保健体育の授業は楽しいですか					運動やスポーツをどのくらいしていますか(体育の授業をのぞく)				
	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い		楽しい	やや楽しい	やや楽しくない	楽しくない		週に3日以上	週に1~2日くらい	月に1~3日くらい	しない
男子	67.9	20.2	6.4	5.5	男子	47.7	39.4	4.6	8.3	男子	56.0	25.7	11.0	7.3
女子	47.7	28.4	11.4	12.5	女子	36.4	42.0	17.0	4.5	女子	37.5	29.5	13.6	19.3

体力・運動能力(第2学年)

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
男子	28.28	24.34	40.53	51.29	70.97		8.26	196.24	19.60	39.45	女子	24.59	18.74	38.93	43.44	43.46		9.20	155.93	12.32	41.57

県平均値かつ全国平均値未満

重点課題および要因

情意面

体を動かすことを肯定的に捉えている生徒が多いが、その捉えと運動能力にギャップがある。また、テスト結果には二極化が見られる。好きな生徒は挑戦をすることができるが、苦手な生徒は、運動をすることへの関心や新たな挑戦への意欲が低い。幅広く運動に親しむことができていないことが要因であると考える。

体力面

女子の握力以外の項目は、県平均値かつ全国平均値未満であり、特に長座体前屈のポイントが低く、また、基礎的な体力もついていない。これらは、熱中症対策として体育における運動強度を下げたことや、運動部活動時間が減少したことが要因と考えられる。

重点課題等に対応した改善する取組内容及び方法

保健体育の授業で行う取組内容

- ・特にポイントが低かった長座体前屈に重点を置き、授業の冒頭で、柔軟性が高まる運動を取り入れることで、各種目の技術の向上と、けがをしない体をつくる。
- ・二極化や偏りの視点から、授業の中で段階的な課題を示し、すべての生徒が「できる」と感じる授業の展開を行う。

保健体育の授業以外で行う取組内容

- ・駅伝大会などのスポーツ行事へ積極的に参加するとともに、出場者を幅広く募り多くの生徒に運動の機会を与える。
- ・放課後の時間を活用し補充運動や昼休憩のボールの貸し出しなどを行い体力の向上に取り組む。

2025年度(R7年度)の重点目標値

- 【体力面】・県平均値かつ全国平均値未満の種目を維持しつつ、「長座体前屈」を含む2種目の数値を県平均かつ全国平均以上にする。
- 【情緒面】・運動頻度(学校の体育の授業を除く)が週に3日以上生徒を男女ともに50%以上にする。